



気迫の勝負 ～かるた取り大会～

1月17日、塩原地区子ども会対抗かるた取り大会がハロープラザで開催されました。この大会は「塩原かるた」というオリジナルのかるたを使用して行われ、今回が36回目になります。今年は18チームが参加して熱戦を繰り広げ、上大貫Aチームが優勝しました。参加した小学生は、「あまり練習できなかったからちょっとくやしい。来年はもっといっぱい札を取りたい」と話してくれました。



大空に揚がれ！ 三島小凧揚げ大会

1月16日、三島体育センターで開かれた三島小学校の凧揚げ大会は、約30年間続いている伝統行事。大会の目玉は、縦約4m×横約3mの大凧揚げです。児童の手で「開」「拓」「魂」と書かれた大凧には、三島小全校児童の夢がつづられていました。参加児童全員でチャレンジしますが、この日は風がほとんど吹いておらず大苦戦。やっと1枚が空高く揚がると、会場からは歓声が上がりました。



将来の夢はJリーガー 仲間とともに優勝を目指す

1月30・31日と2月6・7日の4日間、くろいそ運動場体育館で36回目となるフットサル大会「セルジオ越後杯争奪戦」が開催。市内外から集まった全34チームの小学生が、仲間とともに優勝を目指し真剣勝負を繰り広げました。試合の合間には、サッカー解説者でおなじみのセルジオ越後氏が、ゲーム形式で技術指導。ブラジル仕込みのやわらかなボールタッチを見せると、子どもたちは「すげえ」と驚いていました。



特別列車に乗って那須塩原へ

1月23日午前11時35分、特別列車「なすしお玉手箱号」が終点の那須塩原駅に到着し、市長や地元の子もたちが列車を出迎えました。この列車は鉄道の魅力を通して那須地域を盛り上げようと「なすてつ」が企画したもので、皇族の移動にも使用される車両「なごみ」が使用されています。千葉県船橋市から孫と参加した女性は「孫が列車好きなので参加した。とても豪華な列車で、とてもよい思い出になった」と話してくれました。



社会で生き抜く力ってなんだろう ～高校生と経営者が議論～

1月30日、市商工会館で黒磯高校の生徒18人が「起業教育セミナー」を受講しました。これは、高校生に進路選択の参考にしてもらおうと、市商工会青年部が企画したもの。「社会で生き抜く力って何」をテーマにグループワークを行い、互いの考えを共有しました。地元で活躍の場を広げる若手経営者に、仕事に対する思いや失敗談などを聞き、「自分で考えて自ら決断し行動する」この言葉の重みを感じ取っていた高校生。受講者の1人・小川大貴さんに将来の夢を聞くと「市役所の職員です。人のために頑張れる人になりたい」と笑顔で話してくれました。



上：堂々とグループワークの意見を発表する高校生 左：起業家から実体験を通してチャレンジすることの大切さを学びました
 左下：グループワークで若手経営者と意見交換 下：終わった後は講師の経営するカフェで懇親会。地元の魅力を感じた瞬間でした

“生き抜く力”の質問に、高校生が書き出したメモの数々。「人脈」「コミュニケーション能力」といった現実的な意見もあれば、「根性」や「息抜き」といった周りを和ませる意見も飛び交いました



力走 郡市町対抗駅伝競走大会

1月31日、第57回郡市町対抗駅伝競走大会が県庁と栃木市総合運動公園を往復するコースで開催され、31チームが出場しました。本市からは3チームが7連覇を目指して力走しましたが、惜しくも連覇には届きませんでした。



第8区 区間賞
よしかわ ひろつぐ
吉川 洋次 選手
(那須塩原市Aチーム)



第10区 区間賞
みやした たくま
宮下 拓磨 選手
(那須塩原市Aチーム)



県庁前を一齐にスタートする選手たち
(1番右が那須塩原市Aチーム)

粘り強い走りを見せた那須塩原市Aチームが2位、Bチームが7位、Cチームが15位と今回は3チームとも持てる力を全て出し切り、区間賞も2人受賞するなど素晴らしい成績を残しました。区間賞を受賞した吉川選手と宮下選手は「チームの力になろうと走った。来年はもっと長い区間を走れるようさらに力をつけたい」「先頭を走る選手の背中が見えたときは行けると思ったが届かなかった。来年は1番でゴールに戻ってきたい」と来年への意気込みを語りました。また、他の選手たちも来年の王者奪還に向けて、さらなる闘志を燃やしていました。